特集　学校教育の推進

豊かな体験を通し、生きる力の基礎を自ら築いていく児童を育てるには、どうすればよいか

会津若松市立神指小学校

一、主題のとらえ方

㈠ 「豊かな体験」とは

① 全身で生き生きと働きかけようとする活動

② 自ら工夫しようとする活動

③ 友達と一緒に取り組もうとする活動

④ 地域に根ざした活動

㈡ 「生きる力の基礎」とは

① 集団生活ができるようになる。

② 自分のことは自分でできるようになる。

③ 自分の考えや意見が述べられる。

④ 身近な社会や自然の事柄に関心を持ち、生きる主体として積極的に働きかけることができる。

二　授業の実際

〈あきとあそぼう〉（一年生）

㈠ 授業テーマ

「身近な自然と触れ合う活動を通して、遊びを工夫する楽しさや、季節の変化を感じ取る授業」

㈡ 手だて

① 日常生活の身近な場面で秋を探したり、見つけた秋を集めたり、秋の素材を使って遊んだりするなどの豊かな体験を通し、意欲的に学習に取り組ませる。

② 秋の自然に全身で生き生きと働きかける過程を通して、自分とのかかわりで自然をとらえさせる。

③ 自分なりの工夫や気付きを集団の中に広めることにより、集団の中の自分の存在や良さに気づかせる。

㈢ 予想される本時の活動展開（表）

予想される本時の活動展開

主な活動・体験と予想される子供の姿	教師の援助・留意点
1．友達に自慢したい遊びを紹介したり、友達の考えた遊びで楽しく遊んだりすることを確かめる。 ○ぼくたちの遊びはおもしろいよ。 ○ドングリでいろいろなおもちゃを作るんだよ。 ○遊びに来た友達が分かりやすいように、遊び方をポスターに書いておいたよ。 ○たくさんの友達が集まるといいな。 ○他の人たちは、どんな遊びを考えたのかな。	○前時までに、子供たちが自慢したい遊びの種類ごとにグループを作り、友達に紹介するための準備を進めさせておく。（材料、道具、ポスター、看板など） ○各コーナーの位置は前もって決め、表示しておく。 ○遊び時間の始めと終わりは、時計の図を表示して子供たちに知らせておく。
2．コーナーごとに、遊びの準備をしたり、役割分担の相談をしたりする。 ○材料や道具はこれでいいかな。 ○看板はどこに置いたらいいかな。 ○わたしが遊び方の説明をするから、だれか、遊びに来た人に道具を渡してね。 ○ぼくは、たくさん集まるように呼びかけるよ。 ○友達の遊びのコーナーを回ってくる人を決めようよ。 ○そろそろ遊びを始める時間だよ。 ○準備は、これで終わりだね。	○本時に使う道具の準備は、前時までに作っておいた材料や遊びに使う道具を各コーナーに並べたり、設置したりすることに限らせる。 ○自分たちの遊びを紹介する子と、他の遊びのコーナーを回ってくる子の分け方は、グループごとに相談し、決めるようにさせる。 ○自分たちのコーナーに、たくさんの友達を呼ぶための工夫をさせたい。 ○各コーナーを回り、準備にとまどっているグループがあったら、だれが、どこに、どんなものを準備したらいいのか相談にのったり、準備する材料や道具の数や種類は適当か助言したりする。
3．自分たちの遊びを友達に紹介したり、友達の遊びのコーナーへ行って楽しく遊ぶ。 ○おもちゃコーナー ・ドングリごまの作り方を教えてあげる。 ・できたこまでこま回し大会をやろう。 ・穴を開けるのが難しいんだよ。 ・ドングリでやじろべえができるよ。 ・木の実でかわいい人形ができたよ。 ○ゲームコーナー ・まとあてゲーム うまくまとにあてたら5点だよ。 ・木の実入れゲーム 箱の中に木の実を入れるゲームだよ。大きな口は狙いやすいよ。 ・ゴルフゲーム まつぼっくりがボールだよ。何回でホールに入るかな。 ○へんしんコーナー ・いらっしゃい、いらっしゃい。ここはいろいろな物に変身できるコーナーだよ。 ○お面作りコーナー ・目隠しをして、上手に顔を作ってね。 ・ドングリの目だよ。うまく置けるかな	○コーナーで遊びを紹介する子供たちに、遊びにきた友達に遊び方を分かりやすく説明するように助言する。 ○コーナを回って遊んでいる子供たちには、ルールを守って楽しく遊ぶように助言する。 ○木の実入れゲームなど木の実を投げたりする遊びや、ドングリに穴を開けるときなどは安全に気を付けるように指導する。 ○遊びの中に入れないでいる子供や、勝手な行動をしている子供には、活動に参加できるように援助する。 ○へんしんコーナーでは、音楽を流して楽しく動作化したり雰囲気を作るように援助する。 ○恥ずかしがって、ステージに上がれなかったり、動作化したりできない子どもがいた場合は、そこで紹介している子どもたちに率先してやってみるよう助言する。

㈣ 考　察

○　手だて①について

ドングリでおもちゃやこまを作って遊ぶ、木の葉や木の実で作った洋服や冠を身につけて踊る、ヤツデのくきとオナモミを利用して作った釣りざおで木の葉の魚を釣る、何種類もの木の葉や木の実で楽しいお面を作るなど、児童の発想を生かした様々な遊びを友達に紹介したり、一緒に遊んだりする体験を通して、自分たちの遊びを自慢したいという気持ちを満足させることができ、生き生きと活動することができた。

○　手だて②について

自分たちの身の回りにある自然に関心を持ち、自然を利用して遊ぶ物を作ったり、身近にある物を使って遊びに必要な道具を作ったりする過程を通して、ドングリに穴をあける技能や、ダンボールをいくつも組み合わせてはりつける技能などを身につけていった。また、具体的な遊び